

果樹病害虫の発生状況

令和8年1月14日
病虫害防除所

1 モモせん孔細菌病春型枝病斑の発生予測モデルによる推定

モモせん孔細菌病春型枝病斑の発生予測モデル（農業総合センター果樹研究所令和3年度普及成果）によると、令和8年度の発病枝率が2%以上のほ場割合は、4.4%と予測され（図1）、平年(19.0%)より少ない予想となりました。なお、今年度の予測値は5.4%で、実測値は0.0%でした。本病は、気象条件によっては急激な拡大のおそれがあるため、春型枝病斑のせん除等を徹底してください。

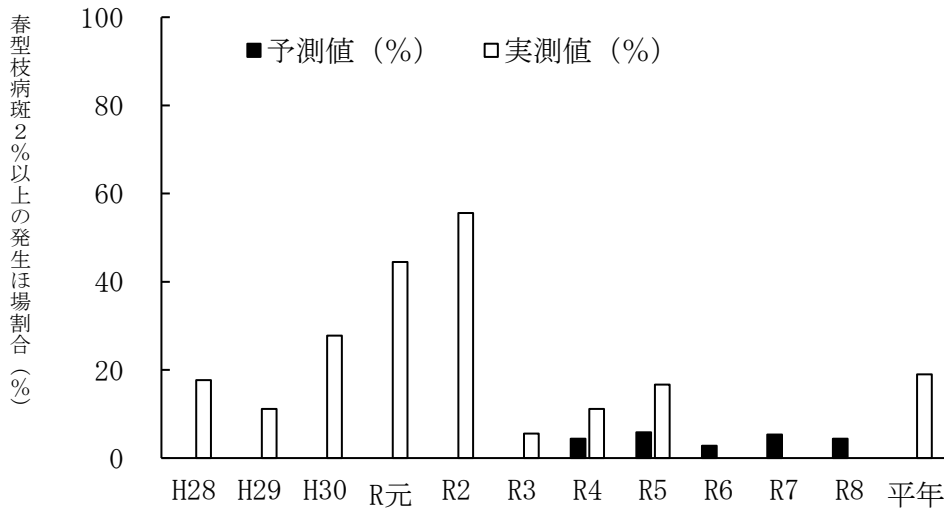


図1 モモせん孔細菌病の春型枝病斑の発生予測と年次比較

2 クサギカメムシの越冬状況

令和7年10～11月に実施したむしろトラップによる調査の結果、クサギカメムシの越冬量は、福島市・会津若松市・いわき市では平年並であり、桑折町では平年より多い状況でした（図2）。なお、桑折町・会津若松市・いわき市の平年値は、直近10年の平均値でなく、平成22～30年および令和6年の平均値になります。また、本種以外の果樹カメムシの越冬量調査を行っていないため、今回の調査結果が平年並であった地域でも優占種が本種から代わっている可能性もあるため、春先からのカメムシ類の発生に注意してください。

※むしろトラップ：調査地点ごとに5枚のむしろ（1.62m²/枚）を設置し、約1か月間に侵入したクサギカメムシ成虫個体数を調査する。

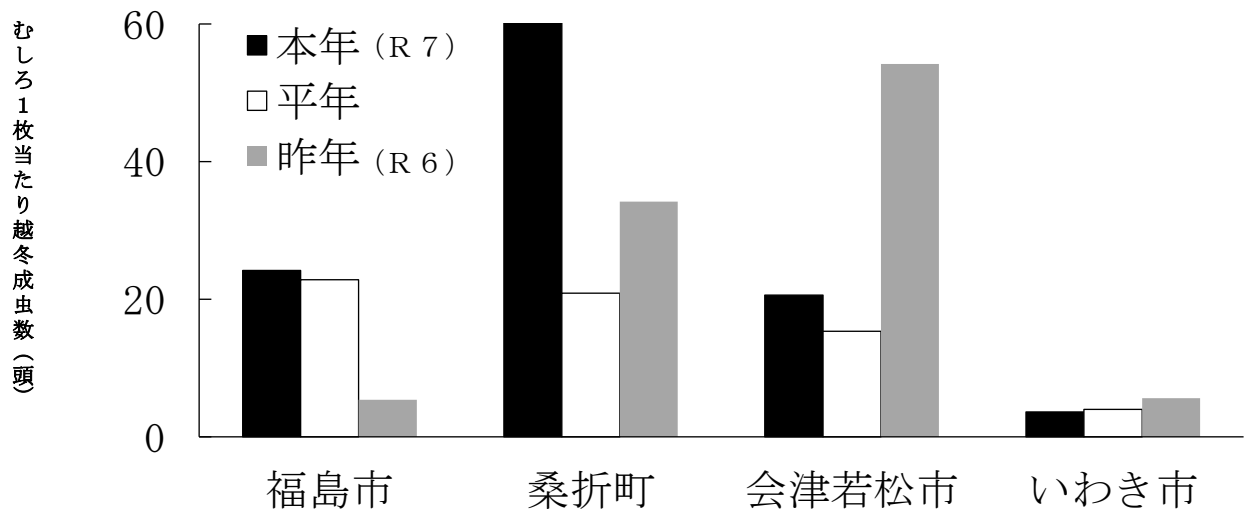


図2 むしろトラップによるクサギカメムシ越冬量

3 モモハモグリガの越冬状況

令和7年12月に実施した越冬調査の結果、発生ほ場割合は平年よりやや少ない状況でした。

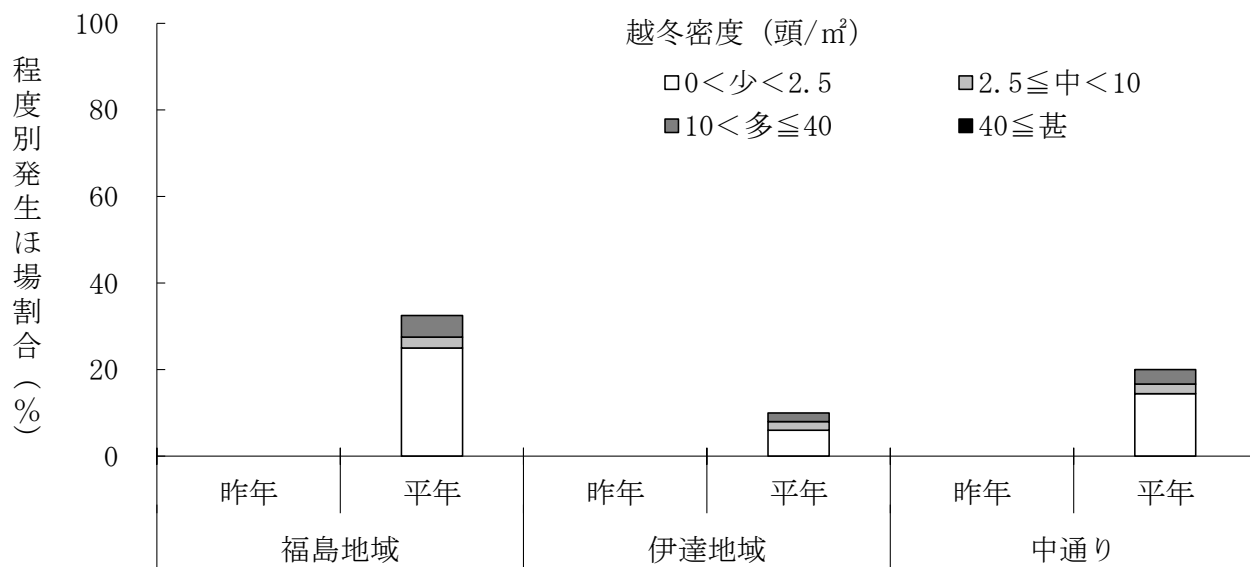


図3 モモハモグリガの越冬状況 (令和7年12月上旬調査)

※ 昨年はR7